

平成21年度 第4回

新太良高校設置準備委員会

日 時 平成21年10月27日(火)
15:00～17:00

場 所 佐賀県立太良高等学校同窓会館会議室

会順（目次）

	頁
開会	1
教育委員会あいさつ	1
委員長あいさつ	1
協議	
1 新太良高校の基本的な考え方	1
2 各作業部会での検討案	10
(1) 総合作業部会	10
(2) 教育課程作業部会	11
(3) 相談・指導作業部会	16
(4) 選抜方法作業部会	20
(5) 地域連携作業部会	22
3 その他	
閉会	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">資料</div>	
・ 前回の会議概要	26
・ 新高校設置準備委員会設置要領	28
・ 平成 21 年度新太良高校設置準備委員会委員名簿	29

開会

教育委員会あいさつ

委員長あいさつ

協議

- 1 新太良高校の基本的な考え方（案）

太良高校改編の考え方(案)

「多様な学びのできる全日制高校(普通科)」 のモデル校として改編

これまでの太良高校の果たしてきた役割を引き継ぐとともに、既存の全日制高校では十分に対応できていない生徒等で、全日制高校で学ぶ意欲と能力のある生徒等に対しても教育機会を拡大し、多様な学びができ、地域も生徒の教育を支援する学校に改編する。

学校名：佐賀県立太良高等学校

改編時期：平成23年4月

➤ 2学期制・単位制

対象とする生徒

- 学区枠(40名) 西部学区の生徒(隣接学区20%以内)
- 全県枠(40名+若干名) 全日制高校で学ぶ意欲と能力のある次の生徒
 - ・不登校経験者でやり直す意欲のある生徒
 - ・発達障害のある者で特性を伸ばそうとする生徒
 - ・高校中途退学者で学び直す意欲のある者

目指す学校像(案)

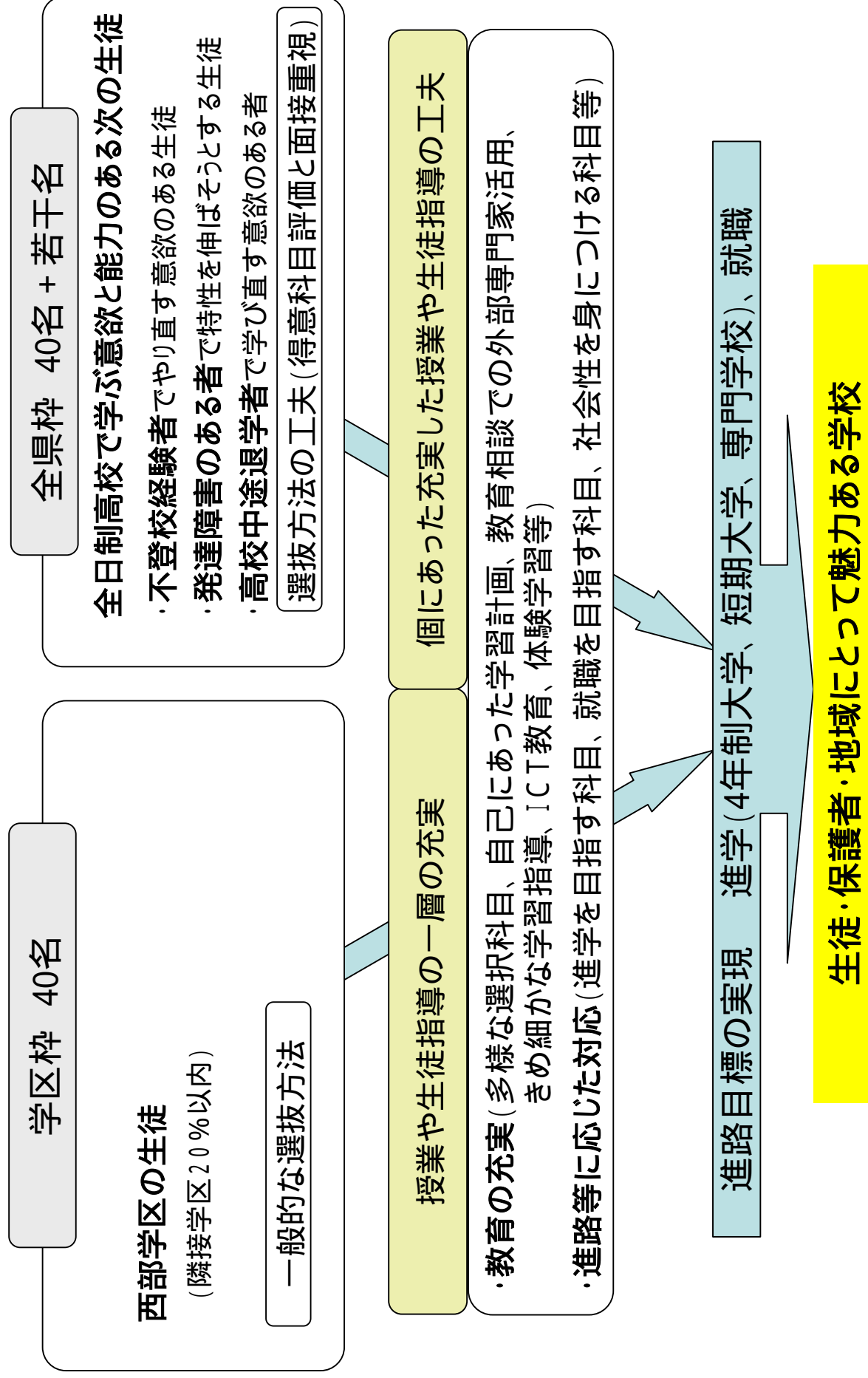
■ 目指す学校像

- 多様な選択科目の設置や単位認定により、生徒の個性や可能性を引き出し伸ばす学校
- ICT教育の充実や少人数によるきめ細かな指導により、生徒に確かな学力を身につけさせる学校
- キャリア教育の充実により、生徒の主體的な進路選択を支援する学校
- 様々な体験学習により、社会性や他人を思いやる心を身につけた生徒を育てる学校
- 地域や家庭と連携し、共に歩む学校

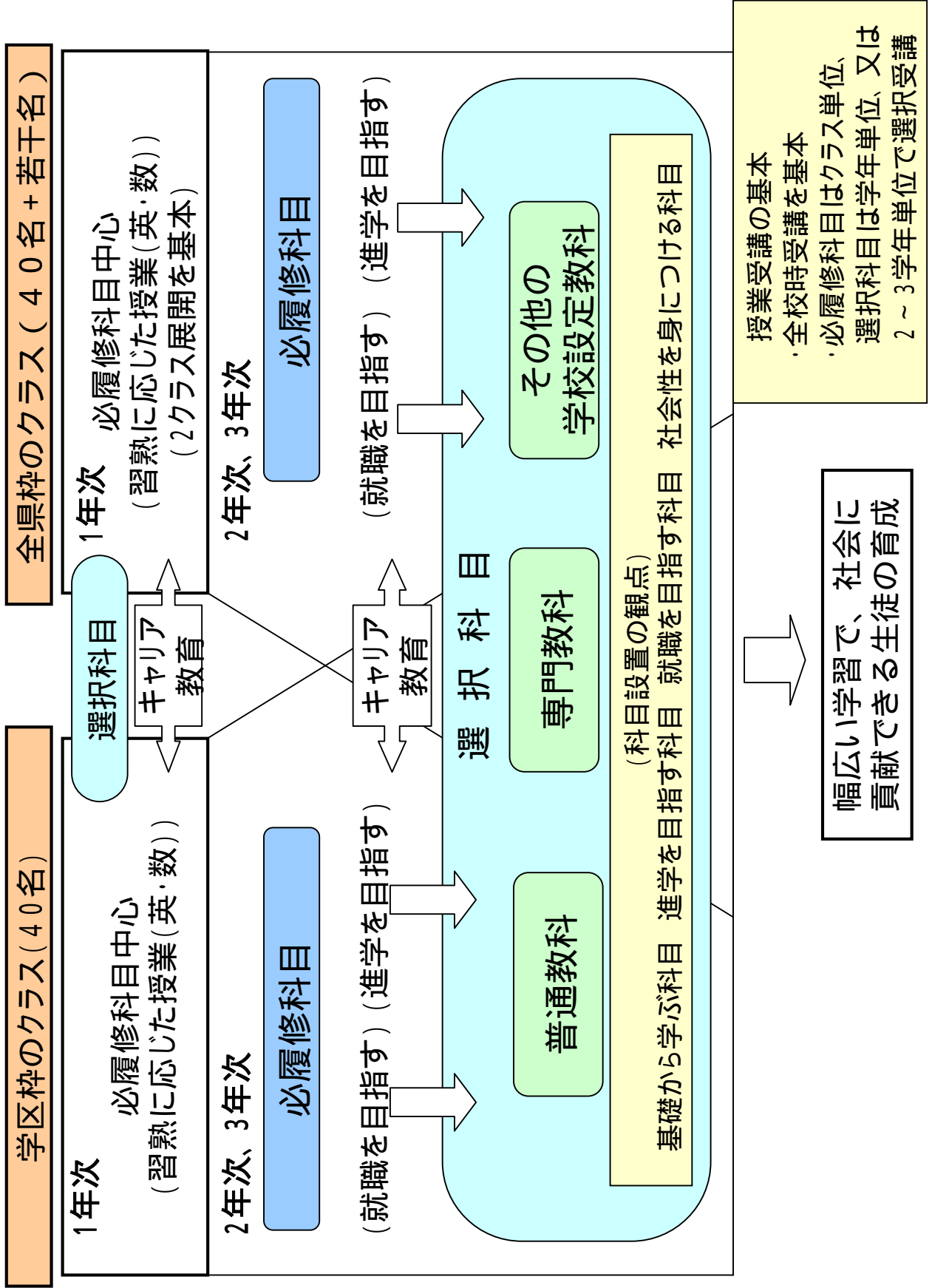
◆ (参考)現校訓

- 「自律」…自律の精神を培い、社会の変化に対応できる心豊かなたくましい人間の育成をめざす

新太良高校の教育の基本的体系(案)



新太良高校の授業体系(案)



改編後の太良高校の特色(案)

・自己にあった学習計画

- ・必修科目と選択科目(単位制)
- ・進学・就職対応や基礎基本の科目、校内外での体験学習など多彩な科目設定
- ・ボランティア活動、就業体験、資格取得、高卒程度認定試験による多様な単位認定

・きめ細かな学習指導

- ・少人数学習指導、TTによる指導

・ICT教育の充実

- ・パソコン活用推進
- ・電子黒板の活用
- ・eラーニングの活用

・学校生活の支援

- ・スクールカウンセラー重点配置
- ・校内指導体制強化
- ・専門家、専門機関との連携
- ・少人数指導室設置

・キャリア教育の充実

- ・進路指導の充実
- ・就業体験
- ・学習指導ガイダンス
- ・資格取得の奨励

・地域との連携(体験学習等)

- ・地域での体験学習
- ・地域連携組織
- ・小中高連携事業

・通学の支援

- ・下宿の確保、校時の工夫による通学利便性向上

教育課程表(平成23年度入学生)(案)

教科	科目	標準単位	必修科目			選択科目			計
			1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	
国語	総合	4	4						4
	現代文	4			2	3	0.5		0.5
	古典	4			3	2	0.5		0.5
	日本語教養	2			2	2	0.2		0.2
	文章入門	2			2	2	0.2		0.2
	文字・言語力基礎	2			1		0.1		0.1
	世界史A	2	2						2
	日本史A	2	2						2
	地理A	2	2						2
	世界史B	4			3	3	0.6		0.6
地理歴史	世界史B	4			3	3	0.2		0.2
	日本史B	4			3	3	0.2		0.2
	地理演習	1			4	2	0.24		0.24
	現代社会	2		3					3
	数学	3	3						3
	数学A	4			3	4	0.45		0.45
	数学B	3			3	3	0.3		0.3
	数学演習	2			2	2	0.2		0.2
	数学演習	3			3	3	0.3		0.3
	ベーシック数学	3			3	3	0.3		0.3
数学	実用数学	2			2	2	0.2		0.2
	理科総合A	2	2						2
	生物	3			3	3	0.3		0.3
	物理	3			3	3	0.3		0.3
	化学	3			3	3	0.3		0.3
	生物	3			3	3	0.3		0.3
	物理	3			3	3	0.3		0.3
	生物演習	1			1	1	0.1		0.1
	自然と実験A	1			1	1	0.1		0.1
	自然と実験B	1			1	1	0.1		0.1
理科	体育	7~8	2	2	3				7
	保健	2	1						2
	音楽	2			2	2	0.2		0.2
	音楽	2			2	2	0.2		0.2
	音楽	2			2	2	0.2		0.2
	音楽	2			2	2	0.2		0.2
	美術	2			2	2	0.2		0.2
	書道	2			2	2	0.2		0.2
	書道	2			2	2	0.2		0.2
	英語	3	3						3
外国語	英語	4			4				4
	オーラルコミュニケーション	2			2				2
	ライティング	4			4				4
	ライティング	4			2	2	0.4		0.4
	ベーシック英語	3			3				3
	ビジュアル英語	1			1				1
	実用英語	2			2				2
	家庭基礎	2	2						2
	情報	2	2						2
	情報	2	2						2
家庭情報	総合的な学習の時間	3~6	1	1	1				3
	普通教科計								39

教科	科目	標準単位	必修科目			選択科目			計
			1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	
農業	生物活用	2~6							2
	グリーンライフ	2~6							2
	会計	2~4						3	3
	ビジネス基礎	2~4						2	2
	商業技術	2~4						2	2
	簿記	2~5						2	3
	情報処理	2~4						2	4
	ICT活用基礎	1						1	1
	Webベース	2						2	2
	Webデザイン	2						2	2
情報	アニメーション基礎	2						2	2
	発達と保育	2~6						3	3
	家庭看護・福祉	2~6						3	2
	フードデザイン	2~6						3	3
	服飾手芸	2~4						2	2
	福祉基礎	2~4						2	2
	野外活動	2						2	2
	体つくり運動	2						2	2
	スポーツ	2						2	2
	ニュースポーツ	2						2	2
家庭福祉	実用書道	2						2	2
	クラフトデザイン	1						1	1
	ビジュアルデザイン	2						2	2
	音楽表現	2						2	2
	創作書道	1						1	1
	秘書実務	1~2						2	2
	有明海学	2~4						3	3
	手話	1~2						2	2
	日本文化	1~2						1	1
	奉仕A							1	1
総合	奉仕B							1	1
	郷土学習A							1	1
	郷土学習B							1	1
	体験学習A							1	1
	体験学習B							1	1
	就業体験							1	1
	ボランティア活動							1	1
	ホームルーム活動							1	1
	知識及び技能審査	*							*
	スポーツ文化活動								
体験学習	校外学修	*							*

* 体験学習Aは3時間×18回の半期認定科目(通期受講)
 * 体験学習Bは2時間×18回の半期認定科目
 * 体験学習と校外学習を合わせて36単位まで修得可能
 * は学校設定科目

* 進学系(理系・文系)、商業系、情報系、
 家庭・福祉系、体育系等の科目を念頭に配置

新太良高校の主要な骨格(案)

- 1 改編の考え方
「多様な学びのできる全日制高校(普通科)」のモデル校として改編(時期:平成23年4月)
- 2 目指す学校像(概要)
多様な選択科目設置や単位認定、ICT教育や少人数によるきめ細かな指導による学力向上、キャリア教育の充実、様々な体験学習、地域や家庭と連携し共に歩む学校
- 3 学校名
佐賀県立太良高等学校
- 4 対象とする生徒
学区枠(40名) 西部学区の生徒(隣接学区20%以内)
全県枠(40名+若干名) 全日制高校で学ぶ意欲と能力のある次の生徒
 - ・不登校経験者でやり直す意欲のある生徒
 - ・発達障害のある者で特性を伸ばそうとする生徒
 - ・高校中途退学者で学び直す意欲のある者
- 5 広域からの生徒募集対策
全県枠で募集する生徒が県内の広範囲から通学できるよう、学校全体の始業時間を繰り下げる(近隣から通学する生徒は、朝の時間を特課や自習、部活動の練習に充てる)ことについて検討
遠距離のために、一般交通機関での通学が困難な生徒には、地元の協力を得て下宿を確保

5 カリキュラムの主要な特徴

進路希望や興味・関心に応じた学習ができる選択科目や、資格取得を目指す選択科目の設置
学び直したい生徒への対応のため、1年次の英語、数学は基礎基本を学ぶバースィック科目を用意
人間性を豊かにすることをねらいに地域の協力を受け体験学習を設定 等

7 教育相談指導の充実

生徒の個々の状態に対応できるよう、外部専門家等を活用
授業中だけでなく、学校生活の中でも対応できる体制を検討

8 選抜方法

学区卒の40名は推薦入試と後期試験を実施する方向で検討
全県卒の40名は推薦は実施しない方向で検討(得意科目を評価し、面接を重視)
全県卒のうち20単位以上有し2年次以上に編入する生徒募集(若干名)を平成24年度以降実施

9 その他

今後、地域や家庭と連携する学校運営のあり方について地元町等と協議
単位制は学年進行(平成23～25年度)で導入
中高一貫連携型選抜は平成22年度入試までとし、連携型中高一貫教育は平成24年度で終了
全県卒の10月編入学の方法について検討

2 各作業部会での検討案

(1) 総合作業部会

1 キャッチフレーズ(学校の特徴を示すキーワード)

New Challenge High-School(新たなことに挑戦する高等学校)

Progressive High-School (進歩していく高等学校)

Endeavor High-School (真剣に努力をする高等学校)

HOT High School (hope,only,try) (希望をもち、本校でしかできないことに、努力する学校)

*ALTに確認済み。また、他によいものがあれば検討に加える。

2 制服

- ・ 制服についての意見を集める。
- ・ 制服変更の場合、太良高校で検討委員会を作って決める。

3 部活動

- ・ 目玉となるような部活をつくる。
中学校からの意見

今後の検討

4 広報計画案

- ・ 中学校等での学区説明会を開き、生徒や保護者に周知を図る。
学校紹介パンフレット 学校再編・新太良高校準備室で12月頃作成
学校案内 22年度の体験入学に間にあうように太良高校で作成
学校ホームページ 22年度当初から太良高校のホームページで情報発信

5 クラス編成方針

- ・ 学区枠を1クラス、全県枠を2クラスに分け、計3クラス体制について検討

6 校務分掌の見直し

- ・ 太良高校内で検討

(2) 教育課程作業部会

1 特色ある教育展開

(1)特色ある教育展開検討での指導方法のあり方

- ・ 授業そのものを「わかる授業」とするための授業法や授業内容等の研究を行う。
- ・ 高校入学や年度初めなど、環境の変化の対応に向けガイダンス等を行い、きめ細かな指導をする。
- ・ 生徒の実態に応じ、専門家の意見を取り入れた指導の工夫を行う。
- ・ 少人数指導により、集団への不適応生徒に対応する。

(2)展開

- ・ 原則、20～30人規模、3クラス展開など、少人数での授業展開を行う。
- ・ 理解を助けるためにT Tを導入する。
- ・ 心身の健全な育成や社会的自立への取組支援等のため、校外でのボランティア活動や体験活動を実施し、単位認定する。
- ・ 興味関心を高めるために、情報通信機器等を活用した授業を行う。
- ・ 職業科目、資格取得関連科目やコンピュータ関連科目など、多様な選択科目を設置する。
- ・ 地域との連携による長期休業中の集中講座など、柔軟な学習活動を展開し、単位認定する。
- ・ 2学期制による学期ごとの半期認定科目を設ける。
- ・ 実用英語検定や簿記検定など技能審査の成果による単位認定を行う。

2 科目設定における考え方

全日制、単位制、45分授業、2学期制（半期科目の設定も）

*科目設定における考え方

- ア 基礎学力を育成する科目や、興味・関心が持てる科目の設定
- イ 中学時の基礎基本の内容を学ぶ科目
- ウ 資格検定などの取得が目指せ、自分のペースで進められる内容の科目
- エ もの作りに関する科目
- オ 社会との接点や関わりを実感し、生徒のコミュニケーション能力を育成できる科目の設定
- カ 学校外の人材や地域の協力を得た体験学習や学校行事
- キ 地域の産業などの協力によるキャリア教育の充実
- ケ 進路希望に応じた学習のできる科目の設定
- コ 必履修科目と選択科目
- サ センター試験に対応できる科目も設定

3 教育課程表 この案をもとに今後さらに検討

新太良高校 教育課程表(平成23年度入学生)

佐賀県立太良高等学校

教科	科目	標準単位	必修科目			選択科目			計	備考	
			1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次			
普通教科	国語総合	4	4						4	必修科目	
	現代文	4				2	3		0.3.5	大学進学希望者のみ	
	古典	4				3	2		0.3.5	大学進学希望者のみ	
	日本語教養	2				2			0.2	日本語の常識	
	文章入門	2					2		0.2	作文・小論文講座	
	文字・言語力基礎	2							0.1	漢字検定等資格取得	
	世界史A	2	2						2	必修科目	
	日本史A	2							2	2年次に1科目を選択必修	
	地理A	2		2							
	世界史B	4					3	3	0.6	進学希望者対象	
	日本史B	4					3	3	0.6	1科目選択 2.3年継続履修	
	地歴演習A	2						2	0.2	歴史能力検定も可能	
	地歴演習B	4						4	0.4	受験科目、歴史能力検定も可能	
	公民	現代社会	2			3			3	必修科目 3年次に必修	
	数	数学	3		3					3	必修科目 1年次もしくは2年次で履修
		数学	4				3	3	3	0.3.6	進学希望者のみ
		数学	3					3	3	0.3	理系の進学希望者対象(開講しない場合あり)
		数学A	2				2			0.2	進学希望者のみ1年次もしくは2年次に選択
		数学B	2					2		0.2	進学希望者のみ2年次もしくは3年次に選択
		数学演習	3					3	3	0.3	進学希望者のみ
ベネシク数学		3				3			0.3	数学の基本事項	
実用数学		3					2		0.2	就職者用	
理科		理科総合A	2	2						2	必修科目
		生物	3		3					3	2年次に1科目を選択必修
	物理	3		3					3		
	化学	3				3			0.3	選択科目	
	生物	3					3	3	0.3	進学希望者のみ	
	化学	3					3	3	0.3	進学希望者のみ	
	物理	3					3	3	0.3	理系の進学希望者対象(開講しない場合あり)	
	生物演習	3						3	0.3	受験科目	
	自然と実験A	1						1	0.1	半期認定科目	
	自然と実験B	1						1	0.1	半期認定科目	
保健	体育	7-8	2	2	3				7	必修科目	
	保健	2	1						2	必修科目	
芸術	音楽	2							0.2	選択必修科目	
	音楽	2				2			0.2		
	美術	2					2		0.2	選択必修科目	
	美術	2					2		0.2		
家庭情報	家庭基礎	2	2						2	必修科目	
	情報A	2	2						2	必修科目	
総合的な学習の時間		3-6	1	1	1				3		
普通教科計				40							
専門教科	農業	生物活用	2-6					2	0.2	農業は四季を通じて学ぶ必要があるため通年	
	グリーンライフ	2-6					2	0.2	農業は四季を通じて学ぶ必要があるため通年		
	商業	会計	2-4					3		0.3	
		ビジネス基礎	2-4				2			0.2	1年次の履修が望ましい。
		商業技術	2-4					2		0.2	
		簿記	2-5				2	3		0.5	全商2級取得を目指す。2.3年継続履修
	情報	情報処理	2-4						4	0.4	
		ICT活用基礎	1				1			0.1	パソコンの基礎(半期認定)
		Webページ	2					2		0.2	Webページ作成の基礎
		Webデザイン	2					2		0.2	Webデザイン技能検定3級取得
	家庭	アニメーション基礎	2					2		0.2	Flashアニメーションの基礎
		発達と保育	2-6					3		0.3	太良高校で実施中
		家庭看護・福祉	2-6				3	2		0.5	太良高校で実施中(2.3年継続履修)
		フードデザイン	2-6					3		0.3	太良高校で実施中
	福祉	服飾手芸	2-4				2			0.2	
		社会福祉基礎	2-4				2			0.2	太良高校で実施中
		野外活動	2					2		0.2	自然体験(キャンプ、水辺活動)夏季集中講座
		体育	2					2		0.2	体つくり運動
	芸術	スポーツ	2					2		0.2	体つくりの運動
		ニュースポーツ	2					2		0.2	球技(太良高校で実施中)
実用書道		2					2		0.2	新しいスポーツ種目(社会体育で実施種目)	
クラフトデザイン		1					1		0.1	資格取得(硬筆4級)と一般教養	
その他の学校設定教科	総合	秘書実務	1-2					2	0.2	半期認定科目(前後期)	
	有明海学	2-4					3		0.3	秘書検定3級の取得	
	手話	1-2					2		0.2	潜水士資格(外部講師)	
	日本文化	1-2					1		0.1	(外部講師)	
	奉仕A						1		0.1	茶道・華道(外部講師)	
	郷土学習A						1		0.1	前期開講 校外外で活動(座学を含む)	
	郷土学習B						1		0.1	後期開講 校外外で活動(座学を含む)	
	体験学習A						1		0.1	前期開講 地域の学習(外部講師)	
	体験学習B						1		0.1	後期開講 地域の学習(外部講師)	
	就業体験						3-9		0-9	半期認定科目	
ボランティア活動						1, 2		0-2	半期認定科目		
校外学修	知識及び技能審査	*							0.1	夏季集中科目	
スポーツ・文化活動			1	1	1				3	夏季集中科目	

* 体験学習Aは4時間×18回の半期認定科目

* 体験学習と校外学習を合わせて36単位まで修得可能

* 体験学習Bは2時間×18回の半期認定科目

* は学校設定科目

学校設定科目概要 (例)

科目名	有明海学		教科名	総合（学校設定科目）		
種別	必履修	選択必履修（選択）	単位数	3	開講学期	（通年） 前期 後期
教科書	なし		副教材			
履修条件（履修順序）	2, 3年次履修。					
履修上の注意事項	水中での実習を伴うので、泳げる必要があります。					
学習の目標	有明海の水産についての理解を深め、ダイビング等の実習を行います。国家試験である潜水士の資格取得を目指します。					
学習内容	通年	・有明海の水産業の歴史 ・すもぐり体験 ・ダイビング入門 ・潜水士講座 ・漁業関係機材の取扱法 など				

科目名	文章入門		教科名	国語（学校設定科目）		
種別	必履修	選択必履修（選択）	単位数	2	開講学期	（通年） 前期 後期
教科書	なし		副教材	自主編成教材		
履修条件（履修順序）	国語総合または国語表現 を履修した者もしくは履修中の者。					
履修上の注意事項	特になし					
学習の目標	進学・就職の小論文や作文に対応します。また、言語生活を豊かにするために生活作文を始め、韻文、書評、投書原稿の作成など幅広い表現活動を行い、場合によっては様々なコンクール等への応募を行います。					
学習内容	通年	(1) 自分を見つめる表現活動 (2) 他者を見つめる表現活動 (3) 社会を見つめる表現活動 (4) 歴史と未来を見つめる表現活動				

科目名	ベーシック数学		教科名	数学（学校設定科目）		
種別	必履修	選択必履修（選択）	単位数	3	開講学期	（通年） 前期 後期
教科書	なし		副教材	計算の復習（浜島書店）		
履修条件（履修順序）	数学 を修得する前に履修。					
履修上の注意事項	高校数学の基礎固めを目指しているので、1年次の履修。					
学習の目標	中学校までに学んだことを確認しながら、基本的な計算能力を高め、高校数学へのスムーズな導入を図ります。					
学習内容	通年	(1) 「数の計算」では、分数・整数の四則演算、指数、平方根等についての学習 (2) 「式の計算」では、文字式について数量の表し方、加法・減法・乗法・除法の計算、因数分解についての学習 (3) 「方程式」では、1次方程式、2次方程式、連立方程式の解法、関数との関連等の学習				

科目名	ニュースポーツ		教科名	体育（学校設定科目）		
種別	必履修	選択必履修（選択）	単位数	2	開講学期	（通年） 前期 後期
教科書	なし		副教材			
履修条件（履修順序）	3年次					
履修上の注意事項	地域住民との交流あり。					
学習の目標	社会体育等で実施されている新しいスポーツを学ぶ。また、地域の愛好者との交流を図り、コミュニケーション能力を高める。					
学習内容	通年	社会体育等で実施されている新しいスポーツのルールや実際のプレーを学ぶ。また、地域の愛好者との交流試合等を通じて、コミュニケーション能力を高める。				

科目名	自然と実験A		教科名	理科（学校設定科目）		
種別	必履修	選択必履修（選択）	単位数	1	開講学期	通年 （前期） 後期
教科書	学校独自編成教材		副教材			
履修条件（履修順序）	特になし					
履修上の注意事項	干潟の観察などの野外実習あり					
学習の目標	有明海の生物や潮の干満など、郷土の自然のすばらしさを観察・実験を通して学び、進んで自然を大切にすることを学ぶ。					
学習内容	前期	1 有明海の自然 有明海の生物 潮の干満と月の動き 2 自然観察 3 環境問題と私たち				

科目名	ベーシック英語		教科名	外国語（学校設定科目）			
種別	必修	選択必修	単位数	3	開講学期	〈通年〉	前期 後期
教科書	なし		副教材	ブリッジ			
履修条件（履修順序）	英語を履修した者は履修できない。						
履修上の注意事項	中学英語から高校英語への円滑な連携を目指し、1年次の履修。						
学習の目標	中学校で学習した内容の確認をとおり、英語の4技能の基礎力を高め、高校英語への円滑な導入を図ります。						
学習内容	通年	(1)「リスニング」に関しては、基本的な英語の音声の特徴をとらえ、情報を正しく聞き取る。 (2)「スピーキング」に関しては、基本的な英語の音声の特徴をとらえ、自分の考えや気持ちなどを、聞き手に正しく伝える。 (3)「リーディング」に関しては、書かれた内容を考えながら黙読したり音読したりして、物語のあらすじなどを正確に読み取る。 (4)「ライティング」に関しては、語と語のつながりなどに注意して正しく文を書く。					

科目名	ビジュアル英語		教科名	外国語（学校設定科目）			
種別	必修	選択必修	単位数	1	開講学期	通年	前期 後期
教科書	なし		副教材	リトル・チャロ（NHK教育）			
履修条件（履修順序）	特になし						
履修上の注意事項							
学習の目標	映像を介して、海外の文化を知るとともに、日常的な英語表現を学び、特にリスニング・スピーキング能力を育成します。						
学習内容	後期	(1)番組を見て、日常的な会話表現を学ぶ。 (2)学んだ表現を使って、会話演習を行う。 (3)番組の内容に関して、自分の意見を発表したり、他人の意見を聞いたりする。					

科目名	秘書実務		教科名	総合（学校設定科目）			
種別	必修	選択必修	単位数	2	開講学期	〈通年〉	前期 後期
教科書	なし		副教材	秘書実務			
履修条件（履修順序）	3年次での履修。						
履修上の注意事項							
学習の目標	社会人に必要な教養としての礼儀作法に関する知識・技術を習得させ、社会生活を円滑に営む能力と態度を育成する。秘書検定3級以上の取得を目標とする。						
学習内容	通年	1. 諸手続について 2. ビジネスマナー（秘書検定3級を目指して） 3. 日常マナー・一般教養					

科目名	アニメーション基礎		教科名	情報（学校設定科目）			
種別	必修	選択必修	単位数	2	開講学期	〈通年〉	前期 後期
教科書	なし		副教材				
履修条件（履修順序）	2, 3年次履修。						
履修上の注意事項	なし						
学習の目標	Flashアニメーションの基礎知識や技術を習得し、簡単なアニメーション・動画制作について学びます。						
学習内容	前期	(1)「Flashとは」では、Flashの仕組みやFlashでできること、についての学習 (2)「図形の作成」では、図形の描画と編集についての学習 (3)「アニメーションの基礎(1)」では、基本的なアニメーションの作成、移動アニメーション画像についての学習 (4)「アニメーションの基礎(2)」では、変形アニメーション、アクションスクリプトの基礎についての学習 (5)「アニメーションの作成」では、自由課題制作、作品発表についての学習 定期的に作品の提出を行う。定期試験は行わない。					
	使用機器等	・コンピュータ、Flashソフト（FreeMotion、Flash8 MX・CS3・CS4）					

科目名	創作書道		教科名	芸術（学校設定科目）			
種別	必修	選択必修	単位数	1	開講学期	通年	前期 後期
教科書	なし		副教材	なし			
履修条件（履修順序）	特になし						
履修上の注意事項	材料費がかかる。						
学習の目標	書道での創作活動を通して自分を表現することによって、自分と向き合う機会を作り、友達の作品を鑑賞することによって様々なコミュニケーションを図る。						
学習内容	前期	漢字仮名交じりの書（鑑賞、創作）	印の制作	作品の表装	鑑賞		
	後期	漢字仮名交じりの書（鑑賞、創作）	印の制作	作品の表装	鑑賞		

(別表1) 太良高校 知識及び技能審査による単位認定

知識及び技能審査	検定名	主 催	級	認定単位
	実用英語技能検定	日本英語検定協会		2級
準2級				3
3級				2
日本漢字能力検定	日本漢字能力検定協会		2級	3
			準2級	2
			3級	1
歴史能力検定	歴史能力検定協会		2級	3
			3級	2
			準3級	1
硬筆書写技能検定	硬筆書写技能検定協会		1級	2
			2級	1
毛筆書写技能検定	毛筆書写技能検定協会		1級	2
			2級	1
小売商(販売士)検定	日商		2級	2
			3級	1
簿記検定	日商		2級	2
ワープロ実務検定	全国商業高等学校協会		1級	2
			2級	1
簿記実務検定	全国商業高等学校協会		1級	2
			2級	1
商業経済検定	全国商業高等学校協会		1級	2
情報処理技術者	通商産業省		2級	2
			システムアドミニスト レーター	2
情報処理検定	全国商業高等学校協会		1級	2
			2級	2
秘書技能検定	秘書技能検定協会		2級	2
			3級	1
被服製作技術検定	家庭科教育振興会		1級	2
			2級	1
食物調理技術検定	家庭科教育振興会		1級	2
			2級	1
ホームヘルパー	厚生労働省		2級	1
潜水土	安全衛生技術試験協会			1
危険物取扱者	総務省		乙種4類	1

* 太良高校の授業等で受験のための指導が可能なものを認定する。

(3) 相談・指導作業部会

1 生徒指導計画

(1) 生徒指導における考え方

- ・ 社会性、規範意識を身につけさせ、自己責任のもと行動できる生徒を育てる。
- ・ 個々の生徒の個性に応じた適切な生徒指導を行い、不登校、中途退学者を出さない。
- ・ 教職員全員で取り組む組織体制づくり(担任・副担任等一部の教職員に偏らない体制)
- ・ トラブル等発生時の対応と体制づくり
- ・ 下宿生徒への指導体制の整備

(2) 生徒指導の目標

- ・ 良識ある行動と気品ある人格の育成
- ・ 個性を尊重し、他人を思いやる心豊かな生徒の育成
- ・ 規則の遵守による明るい学園の気風確立
- ・ 環境美化に努め、公共物愛護の精神、ボランティア精神の育成
- ・ 地域との連携による指導の強化
- ・ 交通ルール遵守の徹底
- ・ あいさつの励行と服装指導の徹底

(3) 生徒指導体制

- ・ 生徒指導体制(校務分掌)を見直す。
現行体制(生徒指導主事、生徒指導担当、学年主任8名で構成)
- ・ 校長の指導の下、生徒指導担当等、学年主任、担任の役割を明確に位置付け、連携しながら学校全体で取り組む。
- ・ 小さな問題行動を見逃さず、担任指導 学年指導 管理職指導の連携を充実させる。
- ・ 生徒の日頃の行動や態度等について、職員会議等の場を活用して共有し、学校としての指導方針を明確にする。
- ・ 学校参観、保護者会、学校便りなどを活用して、保護者、地域社会に情報提供し、理解を得る。

(4) 個々の生徒の指導

個々の生徒の指導に当たっては、教育相談担当等と連携し、事前に生徒の状況を全教職員で共有し、生徒に対応した適切な指導を行う。

不登校経験のある生徒等の指導

- ・ 不登校、中途退学になった原因等の把握とそれに応じた指導を行う。
- ・ 不登校傾向の生徒、中途退学者への登下校時等の声かけを行う。
- ・ 不登校経験者、中途退学者が学校生活に適應できるよう毎月のフォローやガイダンスを実施する。

発達障害のある生徒への指導

- ・ 発達障害の生徒への指導に当たっては、各自の個性(障害等)に応じた指導を行う。
(例：大声での指導に反応することがあり得る。)

(5) 下宿生徒への指導体制

- ・ 学校、家庭、下宿受入先と連携し対応する。
- ・ 生徒指導担当等のうちから、下宿生徒担当を設ける。
- ・ 下宿生徒に対しては、入学当初に下宿先でのマナーやルールの指導を行う。
- ・ 学校、下宿受入先と「連絡会」等を設置し、下宿受入先での生徒対応にあたっての統一の対応方針等を周知、情報交換する。
- ・ 下宿受入先と緊密に連絡を取り、生徒に問題兆候があった場合や緊急時には連絡してもらおう体制を作る。
- ・ 下宿生徒担当は、定期的の下宿先を訪問し、生徒に対する情報を入手する。

(6) トラブル発生時の対応

- ・ トラブル等の発生時に備え、校内体制を整備しておくとともに、関係機関(教育委員会、PTA、警察、消防署、医療機関等)との連携を図る。

2 進路指導計画

(1) 進路指導における考え方

- ・ 学校教育目標等にキャリア教育の推進を位置付ける。
- ・ 総合的な学習の時間、教科、科目等と関連づけて、学校全ての教育活動を通じた組織的、体系的なキャリア教育がなされるよう各教科等の指導計画作成に当たって配慮する。
- ・ キャリア教育を推進する校内体制を充実させるとともに、地域・関係機関や家庭と連携・協力する。
- ・ 就業体験により、自己の将来について考え、望ましい職業観や勤労観、さらには進路を主体的に選択する能力を育成する。

(2) 進路指導目標

- ・ 自立の精神を養い、社会に貢献できる人材をめざす。
- ・ 基礎学力の向上を図り、自己実現を達成させる。
- ・ 進路実現のためのキャリア教育の充実をめざす。
- ・ 保護者との相互理解を深め、生徒個々の特性を生かした進路指導を行う。
- ・ 生徒の個性を尊重し、個々の適性・能力を生かせる進路実現の意識を高めさせる。

(3) 進路指導の特徴

- ・ 進学・就職のいずれにも対応したカリキュラム編成
- ・ 学校設定科目で、職業教科・科目について一定の履修機会を確保(勤労、奉仕に関わる体験等での単位取得も可能)
- ・ 総合的な学習の時間、ロングホームルームを活用した就職支援や進学指導
- ・ 長期休業中に学校が認めた機関等で指定された期間、就業体験に従事することによる単位認定
- ・ 望ましい勤労観の形成や社会と関わる力を養うための多様な体験活動の実施
- ・ 保護者会、進路相談、進路だよりによる保護者との緊密な連携

(4) 総合的な学習の時間を利用したキャリア教育

総合的な学習の時間を利用し、3年間を通じたキャリア教育を行う。

- ・ 1, 2学年にキャリアガイダンスを実施し、望ましい勤労観・職業観を育成すると共に、将来のあり方・生き方を考えさせる。
- ・ 1学年から進路実現に結びついた生活指導、学習指導、良好な人間関係を構築させる指導を行い、進路実現のために必要な学力、スキルを身につけさせる。
- ・ 個々の生徒に応じたソーシャルスキル、規範意識、マナー等を身につけさせる。

(5) 進路指導体制(校務分掌)

現行体制(進路指導主事・進学主任・進路指導担当1名が常駐、他2名の計5名)を他の分掌の兼ね合いも見ながら検討する。

- ・ 進路指導支援については進路指導担当等、担任及び外部関係機関との共通理解のもと、連携を図りながら学校全体で取り組む。
- ・ キャリア教育の充実・推進活動を通して、日頃からの確かな指導・支援を心がけ、進路実現に向けての目標を明確に持たせる。
- ・ 担任、保護者との連携を密にし、生徒個人の適性・能力を見極めた進路指導・支援に努める。
- ・ 啓発活動の一環として、保護者、地域への進路便りの配信、学校行事・講演会・進路説明会への参加推進を行い、相互の情報共有・共通理解を目指す。

(6) 進路実現支援

進路相談

担任等は、入学時に、進学・就職の実現のための相談を行い、生徒の実態に即した情報の収集に努めるとともに、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな進路指導を行い、個々の進路希望の実現を図る。

- ・ 担任等は、選択科目の内容を説明し、将来の進路希望に応じた履修科目の選択を考えさせる機会を持つ。(履修科目相談週間の実施)
- ・ 進学希望者に対しては、進学実現のための履修科目のアドバイスと適切な指導を行う。
- ・ 各種資格取得希望者に対しては、資格取得のための適切な指導を行う。

進学実現充実策

- ・ 進学担当主任は、生徒の進学実現のための情報収集や具体的な方策を策定する。

就業体験先、就職先の確保

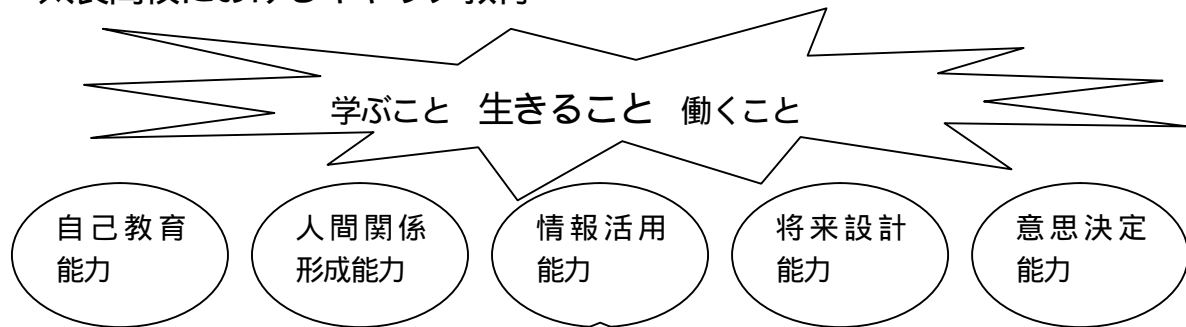
- ・ 進路指導担当等は、就業体験先、就職先の確保・充実に努める。

個々の生徒への進路対応

- ・ 進路指導担当等は、保護者、公的就職支援機関、就労支援コーディネーター、CSOとの連携を図り、適切な就職先を開拓する。
- ・ 進路指導担当等は、就業体験等を発達障害の有無に関係なく、企業に受け入れてもらうように積極的に働きかけを行う。

(7) 進路指導計画

太良高校におけるキャリア教育



各教科・科目 特別活動 総合的な学習の時間	3年次	* 自己の能力適性を的確に判断し、進路を決める。 * 理想と現実の葛藤を通して困難を克服するスキルを身につける。	家庭・地域・企業等との連携 社会人の講話 出前授業 奉仕・ボランティア体験 体験学習
	2年次	* 学習活動や就業体験を通して勤労観・職業観を育成。 * 自己の職業適性能力を理解し、将来設計を図る	
	1年次	* 新しい環境に適応し、他者との望ましい人間関係を構築。 * 様々な情報を収集し進路選択の幅を広げる。 * 学習活動を通して自己の能力・適性を理解する。	
学校見学会参加 進学準備 進路先の決定 職業生活への適応 就業体験 学校見学会参加 職業研究 出前講座 大学等学部・学科研究 職業ガイダンス ライフプランの作成 科目等選択 自己の個性理解			

(4) 選抜方法作業部会

1 募集定員について

学区枠：40名

全県枠：40名

編入学：若干名（学校独自でなく、教育委員会として募集することを明記する。）

2 選抜基本方針

(1) 全県枠の対象となる生徒層

- ・ 全日制高校で学ぶ意欲と能力のある生徒で、
ア 不登校経験者でやり直す意欲のある生徒。
イ 発達障害のある者で特性を伸ばそうとする生徒。
ウ 高校中途退学者で学び直す意欲のある者。

(2) 選抜における考え方

選抜要項に考え方をいれる。

- ・ 学区枠は従来どおりの選抜方法で実施。
- ・ 全県枠は生徒の得意科目や高等学校で学習したいという意欲を重視する。
- ・ 全県枠では、中学校で不登校等の理由で長期間欠席したため調査書の評定等が不利になっている生徒や、発達障害のある生徒が、受験する上で不利にならないような手だてを実施する。
- ・ 全県枠での中途退学者の選抜は、学校生活に向けた目標や高等学校を卒業しようとする意欲を重視する。

3 応募資格

佐賀県立高等学校入学者選抜実施要項を基本とする

学区枠

- ・ 佐賀県立高等学校入学者選抜実施要項に準ずる

全県枠（1年4月入学）

保護者が佐賀県内に居住し、志願者も佐賀県内の中学校を卒業若しくは平成23年3月卒業見込みの者又は中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、以下のア～ウのいずれかに該当する者

ア 不登校傾向等の者

- ・ 中学校での欠席日数及び適応指導教室等への通所等により出席扱いになっている日数の合計が、いずれかの学年で30日以上である者

イ 発達障害のある者

- ・ 医療機関等から発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）の診断を受けている者
- ・ 保護者が中学校に発達障害を申し出ている、または、発達障害ではないかと相談している生徒で、学校長もその傾向があると判断する者

ウ 高等学校を中途退学した者で、高等学校における修得単位が一定単位以下の者

全県編入学枠（2年次以上編入）

高等学校の中途退学者で、在学していた期間が1年以上、かつ高等学校における修得単位が一定単位以上の者

*なお、23年度4月編入は行わない。24年度は2年次編入のみ募集。

4 選抜

(1) 学区枠の選抜について

- ・ 調査書、学力試験、面接等を総合的に判断し合格者を決定する。

(2) 全県枠（1年4月入学）の選抜について、

- ・ 検査内容は学区枠とほぼ同じものを実施するが、選抜時に独自の基準を設ける。
- ・ 面接を重視する。
- ・ 面接は、面接官の主観に左右されないように、複数回行う。
- ・ 調査書の学習の記録や出欠の記録は、選抜の対象としない。

(3) 編入枠（2年次以上編入）の選抜について

- ・ 作文や面接で、学び直す意欲を問う。

(4) 試験実施特例

- ・ 「入試の公平性を保つことを前提に県の入試の実施要項に基づいた内容を記載する」

(5) 地域連携作業部会

1 体験学習実施計画

(1) 体験学習(週1回実施)の講座数(計画)

- ・ <3校時分> × 前期・後期(金曜日午後予定) 通期受講3単位
* 実習中心等の科目を前後期各7講座程度・計30名程度 × 2回受講
[経過措置]・平成23年度 前後期各3講座程度 計13名程度 × 2回受講
・平成24年度 前後期各5講座程度 計20名程度 × 2回受講
- ・ <2校時分> × 前期・後期(水曜日午後予定) 半期1単位
* 校内実習、学校設定科目(奉仕、郷土学習等)を前後期各3講座・計30~60名程度 × 2回
[経過措置]・平成23年度 前後期各2講座程度 計30~60名程度 × 2回
・平成24年度 前後期各3講座程度 計30~60名程度 × 2回

(2) 体験学習の具体的な実施内容例

週1回実施(平成23年度例)

ア <3校時分> × 前期・後期(金曜日午後予定) 通期受講3単位

対象: 1年次生

A 介護福祉・園芸体験(前期・後期実施、各生徒5名程度)

隣接農地で自家用の野菜・果物を多数栽培しているグループホームでの体験、複数の福祉施設での介護福祉体験

B 園芸・加工体験(前期・後期実施、各生徒4名程度)

バラ栽培やユリ栽培(前期はマンゴー栽培もあり)を中心とした園芸体験(フラワーアレンジメントも実施)、ミカン栽培、ジュース・ジャム加工中心の園芸・加工体験

C 食品加工・漁業・林業体験(前期・後期実施、各生徒4名程度)

精肉作業・加工、蟹・ヒラメ・のり等養殖等を中心とした食品加工・漁業体験、林業体験・椎茸栽培・木工作业等を中心とした林業関係体験、

マリンスポーツ(7月中旬: B & G海洋センター活用について地元町と今後協議)

イ <2校時分> × 前期・後期(水曜日午後予定) 半期1単位

対象: 1年次生

A 学校菜園実習体験(前期・後期実施、各生徒10名~20名)

学校菜園を利用した太良町特産等の野菜栽培等を中心とした実習体験

B 奉仕活動(前期・後期実施、各生徒10名~20名)

清掃活動、リサイクル活動、募金活動、案内板政策、救急救命体験等の奉仕活動

C 郷土学習(前期・後期実施、各生徒10名~20名)

現在実施している総合的な学習の時間の郷土学習をベースに郷土学習、現地確認、郷土産品を使った加工等を中心とした郷土学習

2 通学対策実施計画

(1) 通学対策の基本的考え方

特別募集は、生徒を全県から募集するため、通学利便性向上のための通学対策を実施

(2) 通学対策の方法

太良高校前駅の設置推進

太良高校前新駅は、利用者数増などの解決しなければならない課題があり、課題の解決に向けた関係機関の協議等が必要。(知事部局所管本部)

公共交通機関の利便性確保

J Rや路線バスのダイヤ改正、増便など関係者の意見を今後聴取予定。

下宿の確保

遠距離のために一般交通機関での通学が困難な生徒には、地元の協力を得て、下宿を確保。

- ・ H 2 1 . 8 月町広報誌で募集、一部問い合わせあり。一定数確保のため今後地元町と引き続き協議。

始業・終了時間の工夫

J R 駅時刻表も考慮し、始業時間を 9 時 3 0 分、終業時間を 1 6 時とする校時表とする案、又はその他の効果的な案等の可能性を引き続き検討。

- ・ 下り列車 現行校時表 佐賀駅 7 : 0 0 多良駅 8 : 0 2 8 : 3 5 始業
改編後校時表 佐賀駅 7 : 5 3 多良駅 9 : 0 1 9 : 3 0 始業
- ・ (参考) 上り列車 多良駅 1 7 : 0 6 佐賀駅 1 8 : 0 8 1 6 : 0 0 終業
- その他

3 地域連携のあり方

(1) 地域連携の基本的あり方

- ・ 今日の学校教育においては、「地域社会と連携した学校教育」の推進が重要とされるが、そのためには、何よりも地域に開かれた学校であることが求められる。
- ・ こうした中、一方では、学校経営の面においても、地域社会には、職業や経験などを通して培った高い資質や能力をもつ様々な人々が多数おられ、こうした人々の専門的な知識や技能などを学校の教育活動に適切に生かすことによって教育活動の多様化とその質の向上が期待できる。
- ・ こうした社会人の活用は、生徒たちの社会性や勤労観・職業観の育成という視点からも有効とであり、加えて、学校に外部の新しい発想や教育力を取り入れることにより、閉鎖的になりがちな学校運営の改善や教員の意識変革を促すことも期待できる。
- ・ また、部活動についても、地域の人を外部指導者として活用するほか、学校外の優れた指導者や充実した施設のもとでの活動を展開するなど、地域社会との連携を図ることにより大きな成果が得られると考えられる。

(2) 新太良高校の地域連携のあり方の構築

新太良高校は、これまでの形での生徒募集に加え、既存の全日制高校では十分に対応できていない生徒を全県から募集することから、学校と地域との連携のあり方等、今後、改編後の状況等を注視しながら、よりよいあり方を構築する必要がある。

(3) 新太良高校の地域連携の今後の進め方

地域に開かれた学校づくりの推進

- ・ 学校が地域社会に積極的に近づく（職場体験、実習、地域行事や文化継承等）
- ・ 学校施設の地域開放（学校図書館、特別教室等）
- ・ 教職員と地域住民が連携した非行防止など、生徒指導の充実 等

地域の教育力の活用

- ・ 学校と地域との交流や人材の相互活用（地域人材の活用、各種行事、ボランティア活動等を通じ地域交流や福祉施設連携強化、教育内容広報のためのICTや情報誌活用等）等

新たな組織づくりの検討

こうした取組を真に意義あるものにするため、新たな組織づくりを含めて検討が必要組織のあり方について、今後、地元町等と協議する。

4 その他

(1) 地元との意見交換等

今後、太良高校、多良中学校、大浦中学校のPTA役員等に検討の現状説明や意見交換等を実施予定。

(資料) 前回の会議概要

開催した会議の名称	平成21年度 第3回新太良高校設置準備委員会
開催日時	平成21年8月26日(水) 15:15~17:00
開催場所	(所在地) 藤津郡太良町大字多良4212-6 (会場名) 佐賀県立太良高等学校同窓会館会議室
出席者	白水委員、中原委員、陣内委員、荒木委員、松尾委員、大岡委員、合浦委員、小野原委員、杉崎委員、平山委員、塚原委員、中村委員、峰委員、福田委員、古賀委員、村岡委員代理、熊崎委員代理
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	0人
会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員会挨拶(志岐副教育長)</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 協議</p> <p>(1) 各作業部会での検討案</p> <p style="padding-left: 40px;">総合作業部会</p> <p style="padding-left: 40px;">教育課程作業部会</p> <p style="padding-left: 40px;">選抜方法作業部会</p> <p style="padding-left: 40px;">相談・指導作業部会</p> <p style="padding-left: 40px;">地域連携作業部会</p> <p>(2) その他</p> <p>5 閉会</p> <p>(主な意見・要望)</p> <p>太良高校という校名は、地元根付いているし、歴史がなくなるのは卒業生としては、寂しい。改編後の高校名も現状の校名でお願いしたい。(準備委員会としては、校名変更しないとの意見を確認)</p> <p>学校の特徴を表すキャッチフレーズについては、進学する地元中学生等の意見も聞いて、検討したらどうだろうか。</p> <p>目玉となる部活ということであれば、子ども達が憧れるような熱心な指導者を配置することが必要である。</p>

新太良高校にふさわしい科目設定になっているが、問題なのは教職員をどう確保していくかである。今後しっかり詰めて欲しい。また、斬新な科目設定は、生徒募集の宣伝となる。

地元に残る漁業者の子どもが必要とする資格が、太良高校で取得できたらと思う。

教育課程の中身は詰められているようなので、学校設定科目の詳細について、もう少し詳細なものを出して欲しい。

選抜方法の中で、不登校生徒の「やる気を評価する」という表現は、不登校生徒が「評価」という言葉に神経質になるので、表現の仕方を検討して欲しい。

地元の方から、新太良高校の内容について、説明して欲しいとの要望もあっているので、説明をお願いしたい。

私自身もまだ、新太良高校の姿が十分には見えてこないが、ある程度姿が見えてくれば、中学生にも分かりやすいものにできあがってくると思う。

会議資料	・会議資料
問い合わせ先	担当課 教育庁総務課学校再編・新太良高校準備室 電話 0952-25-7222 FAX 0952-25-7067 E-mail saihen@pref.saga.lg.jp

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成21年4月 1日

(設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
 - 二 新高校の施設・設備に関すること
 - 三 新高校への円滑な移行に関すること
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

(組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び学校再編・新太良高校準備室に置く。

(補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

新太良高校設置準備委員会委員（平成21年4月）

No.	所属・職名	氏名	備考	
1	太良高等学校校長	白水 敏光	太良高校 関係者	委員長
2	太良高等学校教頭	中原 卓則		副委員長
3	太良高等学校事務長	溝口 茂幸		
4	太良町副町長	永淵 孝幸	太良町関係者	
5	太良町教育長	陣内 碩泰		
6	太良高等学校教育後援会長	橋口 健一郎	地元関係者	
7	太良高等学校同窓会長	荒木 誠一郎		
8	多良中学校長	松尾 雅晴	中学校関係者	
9	大浦中学校長	植松 正鋼		
10	多良中学校PTA代表	大岡 利昭		
11	大浦中学校PTA会長	合浦 善哉		
12	鹿島市教育長	小野原 利幸	鹿島市関係者	
13	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市関係者	
14	総務課長	伊東 博則	県教委関係者	
15	教職員課長	中島 秀明		
16	教育政策課長	坂本 兼吾		
17	学校教育課長	平山 又一		
18	体育保健課長	塚原 康弘		
19	藤津教育事務所長	中村 和彦		
20	学校再編・新太良高校準備室長	峰 雅樹		
21	教育政策課参事 (兼)学校再編・新太良高校準備室参事	福田 孝義		
22	学校再編・新太良高校準備室参事	古賀 信孝		
事務局	太良高校教諭	今田 康光		
	学校再編・新太良高校準備室副室長	山崎 新		
	学校再編・新太良高校準備室企画主幹	山口 孝		